

102 城東中学校

地域とともにある学校づくり

小中一貫教育の実践（教育活動の方向性）

中学校区の目指す子ども像	夢や志をもち、その実現に向けて、自ら考え、最後まであきらめずに挑戦する子ども <知>仲間とよりよくかかわりながら進んで学ぶ子ども <徳>思いやりの心をもち、自分も仲間も大切にする子ども <体>よりよい生活習慣を身に付け、粘り強くやりぬく子ども
我が校の目指す子ども像	・2つの「あ・じ・み」をキーワードに、自立と思いやりのある生徒 ・自他の良さに気付き、互いを認め合い、支え合い、高め合う生徒 ・夢や志をもち、あきらめずに粘り強く挑戦する生徒



実現に向けた重点的な取組内容	小中一貫教育の具体的な取組	
	我が校の取組	中学校区の取組
	・11月上旬から中旬にかけて、一斉同和教育授業を行い、部落差別の事例を通し、学校生活における「他を尊重する心」「互いを認め合う心」の醸成を図った。 - また、いじめ見逃しゼロスクール活動と連動し、全校での集会、クラスでのいじめ見逃しゼロに向けたPR動画作成やゼロ宣言の作成を通して、実践力と人権感覚の醸成を図った。 ・英語では基礎的な日常英会話練習やフォニックス学習を帯活動で行った。	・年度ごとに教科・領域を絞り、焦点化した中で推進していく。 ・同和教育部会では、指導計画の見直し、現地学習、かかわる同和教育の実践・推進、同和教育アンケート等を実践し、差別をなくそうとする児童生徒を育成する。 ・学習指導部会では、外国語（英語）教育の内容を把握し、小から中へスムーズな接続ができるように共有化を図る。
	成果○と課題■	成果○と課題■
	○11月から12月を城東中いじめ見逃しゼロ強調月間とし、同和教育の授業と実生活を結び付けて考えさせる取組ができた。 ○中学校区で公開授業等を案内し合い、連携を深めようとした。	○同和教育部会は6年目の取組になり、実践の積み重ねや中学校区の同和教育年間指導計画の実施や見直しをスムーズに行うことができた。 ○小中学校間で実践を参観できるように案内した。

〈夢・志チャレンジスクール事業の取組（地域とともにある学校づくり実践）〉

取組の概要	主な活動内容	
充実感をもたせながら、生徒の思いやりの心や自己肯定感を高めていく取組を教育活動の中核として推進し、自分を見つめ直し、今後の生き方を考えるようになった。	技術・家庭	「快適な衣生活」（1年）
	総合	「働くこと」について考える（1年）
学校運営協議会の評価 適宜、活動の見直しを図りながらも無理のない活動を展開することを基本に、地域人材を活用し、ロールモデルを示してほしい。	夢・志チャレンジスクール事業の取組は、目指す子ども像の実現に有効であった	
	○	当てはまる
		どちらかというと当てはまる
		どちらかというと当てはまらない

令和6年度スクールマネジメント実践報告書

		当てはまらない
--	--	---------

学校運営協議会の活動内容

学校運営協議会の委員の構成									
教職員	1 人	保護者	2 人	住 民	9 人	その他	0 人	合計	12 人
学校運営協議会の回数 ※（ ）は、回数内における紙面協議回数	学校単独	1 学期	1 回 (0)	2 学期	1 回 (0)	3 学期	1 回 (0)	合計 3 回 (0)	
	中学校区合同	1 学期	0 回 (0)	2 学期	0 回 (0)	3 学期	1 回 (0)	合計 1 回 (0)	
活動の内容					成果○と課題■				
・第 1 回は、学校経営の基本方針やグランドデザイン、目指す生徒像等のチェックをし、学校評価等の評価内容等を紙面にて協議、確認した。 ・第 2 回は、学校及び生徒の様子を確認し、学校関係者評価会議を開催した。教務主任、研究主任、生徒指導主事、生徒会担当を加え、グループ協議を行い、中間評価と今後の方向性について議論した。また、地域貢献活動や体育祭の新しい取組の可能性について協議した。 ・第 3 回は、来年度の学校経営や学校評価について検討した。部活動の地域移行についても協議した。					○第 1 回は今年度の経営方針を承認した。 ○第 2 回の学校関係者評価は、学校の各領域の主担当教員が協議に参加したことは、成果と課題を明確にすることに有効であった。 ○第 2 回は生徒会立会演説会を参観し、生徒が堂々と未来を語る姿を見ることができた。 ○第 3 回は、今年度を総括した意見交換と来年度に向けた提言について議論した。				

総 括
第 2 回は生徒の様子を参観してもらった。学校の現状を見ていただいていたからの会議は、生徒の状況や教師の実際に沿った内容を具体的に話し合うことに効果的であった。「学校評価の保護者評価にも、先輩の姿を見て後輩が前向きに成長しているのが伝わる」という声があった。職員も地域も近くのロールモデルとして様々な活動を仕組み、協働しながら、教育活動を推進するため体制を構築していきたい。

〈活動写真〉



○ 3 中学校区育成会議合同
あいさつ運動（10 月）
城北・城東・城西の 3 中学校区合同で同時期にあいさつ運動を行った。



○ 合唱コンクール（10 月）
上越文化会館の大ホールで、生徒、保護者に向けて、学級の心を一つにした歌声を響かせた。それぞれのクラスの努力が表れた感動の時間となった。



○ 総合「職業人講話」（1 月）
職業についての理解を深めるとともに、講師の方々の体験を通して働くことの意義について考えを深め自身の進路を考えるきっかけとなった。